

HSK



第 24 号

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可
H, S, K通巻205号

発行日 平成元年5月10日
(毎月10日発行)

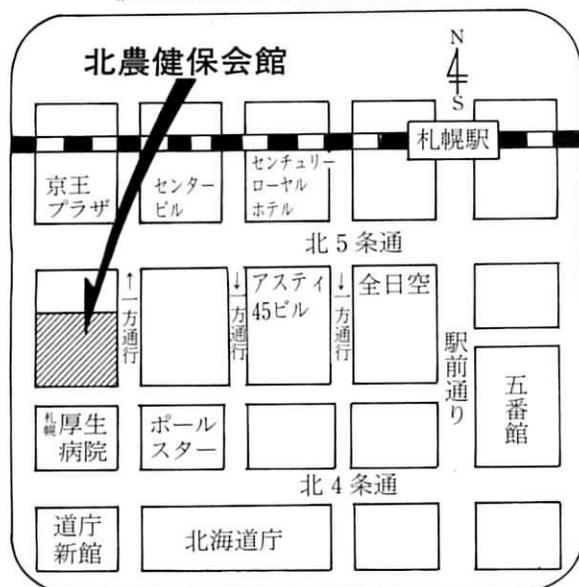
編集 北海道腎臓病患者連絡協議会
札幌市北区北35条西5丁目1-10
AMS南麻生308号

発行 北海道身体障害者団体定期刊行物協会
札幌市北区北13条西1丁目
神原義郎

平成元年 陽春号

道腎協第12回総会議案集

《北農健保会館案内図》



＝所在地＝

札幌市中央区北4条西7丁目
電話 (011)261-3271 (代表)

第12回総会ご案内

第12回総会を下記のように
開催いたします
会員、ご家族の皆様お誘い
合せのうえご参加下さい。

記

＝日 時＝

5月28日(日)

10:00～12:00

記念講演

1:00～2:30

演題 「リンと高脂血症の食事療法について」

講師 札幌透析栄養士交流会会長
佐藤妙子

＝場 所＝

北農健保会館 3階 芭蕉の間

総会当日はこの議案書をご持参下さい
昼食は道腎協で用意します。

北海道腎臓病患者連絡協議会

第12回総会次第

開会のあいさつ 10:00

黙とう

会長あいさつ

来賓あいさつ

祝電・メッセージ披露

議長選出

議事

昭和63年度活動報告

昭和63年度決算報告

昭和63年度会計監査報告

平成元年度活動方針(案)

平成元年度予算(案)

平成元年度役員(案)

規約改正(案)

スローガンの採択

総会宣言

議長解任 12:00

——— 昼食・休憩 ———

記念講演会 13:00

演題「リンと高脂血症の食事療法について」

講師 札幌透析栄養士交流会会長 佐藤 妙子

閉会のあいさつ 14:30

昭和六十三年活動報告

一、はじめに

私達道腎協は、第十一回総会で「国民生活を犠牲とする臨調・行革による医療・福祉切り捨てはやめ」「安心して医療を受け生活していけるよう、医療制度、社会保障制度を国民本位に改革する」ことを基本テーマに、全腎協との連携を強めながら、昭和六十三年度の活動を進めてきました。

昭和六十三年度は、一九四八年に国連で世界人権宣言が採択されて四十周年目の年です。

一九六六年に採択された国際人権規約第十二条は「この規約の締約国は全ての者が到達可能な最高水準の身体および精神の健康を享受する権利を有することを認めるとなっており、健康権や医療権、基本的人権が發展し、語られる根拠になっています。

しかし、私達をめぐる状況は、医療技術の著しい進歩に反して、医療経済環境は、一層厳しさを増し、臨調・行革路線を強固に推進する国の社会保障施策後退の流れは依然として強化されるばかりです。国は、従来の社会保障制度を維持していくことは困難として「国庫負担削減」受益者負担の強力「自助福祉」へと社会保障政策一般において国の責任を後退させています。

また厚生省は、高額な医療費を使っている地方自治体を指定し、「安定化」計画を強制し、実行しなければ交付金を減額するなどの制裁措置を考えるという強硬な手段をとっています。レセプトの点検を強化し、その結果「必要な薬がなくなつた」「検査が受けられない」などの問題が起きています。

また、一方では一向に減らない透析導入患者、その高齢化、長期

透析患者の合併症など様々な面で深刻な状況にあります。

私達道腎協はこうした複雑な状況の中で、前回総会で確認した活動方針にそって地域に根づいた運動をめざし、多様な活動を進めてきました。

この一年間の主な活動とその成果は次のとおりです。

二、一年間の主な活動と成果

(一) 道に対する請願活動について

昭和六十一年四月から国鉄が民営化されたのを機会に、全腎協はJR・航空運賃・有料道路料金の身体障害者割引制度の内部障害者への適用範囲拡大の運動を本格的に取り組むことになりました。

道腎協でも昭和六十三年二月二

日、内部障害者五団体と共にJR・航空運賃・有料道路の割引制度を適用するよう、道議会議長に対し、国への意見書の請願を実施しました。また、岩崎会長が六月二十九日道議会(生活福祉委員会)で「身体障害者旅客運賃割引制度の内部障害者への適用拡大に関する請願書」の主旨説明を行いました。

その結果、この請願は七月十九日道議会本会議で採択されています。

(二) 腎提供登録者拡大運動について

全腎協が取り組んで第八回目、厚生省が定めた「腎移植推進月間」に呼応し、道腎協もこの「月間」をより盛り上げ、腎バンク登録者の拡大をめざす啓発運動などの道民的運動を展開しました。

十月九日全道的に晴天に恵まれ、各ブロック、二十数カ所取

り組み、参加人数は、患者・家族・行政・医療関係者・腎バンク等四〇〇人位の規模で行われ、大きな成果を収めました。ティッシュペーパー、風船、尿試験紙、チラシ、トウスピック等が全道で配られました。また、無料血圧測定、腎臓病相談が各地で行われ、大変好評でした。

なお厚生省の「腎移植推進月間」にならない、道腎バンクでも十月十六日苦小牧で医療講演会が開催されました。

こうした運動の結果、北海道の腎臓提供登録者は、平成元年一月現在二〇、一〇七名(全国では二一九、一〇二名)となっています。

(三) 国会請願署名・募金運動について

私達は、医療と福祉の向上をめざし患者の願いを実現するため、今年度も全腎協と日本患者・家族団体協議会(日患協)の二つの国会請願署名・募金運動に取り組みました。

昨年十月から二ヶ月の間、患者会員のご協力で、全腎協署名一八、一六〇名・募金額一、一〇〇、一

八四円、日患協署名七、五七九名・募金額一六九、二〇五円を集めました。この募金は国会請願行動・各腎友会の貴重な財源となっています。

全腎協の国会請願は本年三月三十日、道腎協から廣岡氏(苦小牧)・西木戸氏(北見)・棧氏(札幌)の三名が参加して、本道選出の衆・参議員、社労委員会に所属する国会議員に紹介議員になって戴くよう要請しました。なお、日患協の国会請願は、四月十五日行われ、現在多くの紹介議員により、社労委員会に提出されています。

(四) 全腎協活動の参加について

① 全腎協第十八回総会が五月十五日、新緑の中美しい熊本城を望む、熊本市民会館において、全国四十五都道府県から会員・家族・医療関係者など一、一〇〇余名が参加して開催されました。道腎協からもこの総会に二三名が参加しました。

② 全腎協の運営の協力について
道腎協は今年度も全腎協の運営に

積極的に協力し、廣岡副会長が全腎協副会長として、川村運営委員が全腎協幹事の任にあたり、それぞれの立場で活躍してきました。

(五) 組織拡大について

会員数は、六十二年度末で一、九七五名でしたが、この一年間で二、〇九六名に増え、やっと二、〇〇〇名を越えました。

この中には、新規に入会した患者会がある反面、会員の協力が得られず、役員になった人が孤立して、やる気を無くしたなどの理由で会員を確保出来なかった患者会もありました。また新たな施設での役員の発掘、患者会の発足が進んでいない所の解決が急がれます。

組織率は六二%でまだ一、〇〇〇名以上を越す患者が未会員であり、依然会活動の大きな課題です。やはり、「数は力なり」と迄は申しませんが、「数は宝」です。患者一人の声は小さいが、みんなの力を結集させれば大きな力となり、私達を取り巻く医療・福祉行政の後退に歯止めをかける事が出来るのではないのでしょうか。

(六) 広報活動について

道腎協は今年度も機関紙「どうじん」を四回発行しました。会の動き、社会的な動き、会員の投稿資料、各シリーズもの、また新たに広報員通信、特集、会活動の内容報告と透析生活に関する資料・情報などを掲載、その内容充実にも努めました。

その他の広報については「全腎協」「透析ライフ」「スマイル」今月の情報」などの完全配布に努めました。

来年度もより一層充実した「どうじん」作りに努力し、年五回の発行をめざしたいと思います。

(七) 道腎協企画旅行について

道腎協では昨年五月「九州半周の旅」、十二月には「ゆったりハワイ旅行」と年二回の旅行を企画実施し、九州二二名、ハワイ一名の参加を得て、参加された患者さんに大変喜ばれました。

「透析になったらもう旅行はできない」と思っていたが「無事に元気で行って来れた」「自分の体力に

自信がついた」また、「海外旅行に行けて良かった」ハワイの夕日がとってもきれいで感動した」などたくさんのお患者さんの声が寄せられました。

事務局では、旅行会社の連絡等、初めての企画なのでとまどいの事がたくさんありましたが、患者さんの「またこの様な企画を考えて下さい」との要望があり、少しでも患者会員の活動に役立つ様、来年度も旅行企画を考えていきたいと思えます。

(八) 医療講演会について

私達道腎協は、会発足以来一貫して「腎臓病患者を増やさない」「会員の医療知識向上」のために、独自の活動として、毎年医療講演会を開催してきました。

昨年は、五月札幌市において、道腎協結成十周年記念特別講演「腎移植の過去・現在・未来」と題し、東京女子医大教授太田和夫先生を招聘して開催されました。約二〇〇名の患者・家族・スタッフが参加され、大変な盛会でありました。

また、昨年十月には同じく札幌市において「長期透析による骨の合併症」CAPDの現状と今後の展望」の二題で、札幌北クリニックの今忠正院長先生を招聘して開催されました。九四名の患者・家族・スタッフが参加し、質問時間が足りない位の盛会でありました。

(九) 他の団体との連携について

道難病連の中で、腎臓病部会として、難病連主催の各種行事、各集会上に積極的に参加活動してきました。

道難病連において岩崎会長が代表理事を務め、各地方ブロックの役員が相当数、各支部の役員を務め、道からの難病検診や道庁各局、道議会各会派への要請・陳情をしてきました。

(十) 各地区ブロックでの活動について

今年度の組織状況は、会員数二、〇九六名、ブロック数一九となっております。

各地方ブロックでの活動としては、各種の講演会、学習会、交流

会などが開催されてそのテーマも種々でした。

レクリエーション活動で、ソフトボール、ボウリング、登山、海水浴、炊事遠足、花見、食事会など会員の親睦を図る催し物が盛んに行われました。

また、各ブロックとも会費以外の財源の確保に努め、募金箱、花火・正月飾り販売、札幌・釧路の年賀状の印刷斡旋など本年も活発に行われました。

もちろん、会員の入会運動も進められましたが、今後共、努力を要求される課題であることはあきらかです。

この様に、各ブロック、各施設患者会とも、地域で長年にわたって患者活動を展開することは、いかに大変であるかと思われず。未加入会員、無関心患者のご理解、ご協力を訴えて、各地域での活動の結びとしたいと思います。

三、おわりに

この一年間の活動は、全国的にも医療、福祉、社会保障をめぐる

状況が、歯止めなく切り崩されて行く中で、現在の施策、制度をいかに守っていくか「腎疾患総合対策」をどう推進していくかに努力を重ねてきました。

また、今年度は、私達が願っていた「腎疾患総合対策の確立」に関して、厚生省の私的諮問機関腎不全対策会議から腎不全の予防、治療、研究、腎移植の推進、国立腎研究センターの設置など、私達の要望が殆ど組み入れられた腎不全対策報告書が提出されています。

これまで私達が活動してきた大きな成果ではないでしょうか。

本年度は、道腎協前事務局長中村信夫氏、その他の役員の方々が数名亡くなっています。私達の今日は、これらの活動家によって支えられてきたことを銘記しなければなりません。

私達会員一人一人が積極的に活動に参加して、より強い団結のもと困難を乗り越え、今後とも運動を進めて行きましょう。

(支出の部)

科 目	予 算 額	決 算 額	%	備 考
会 議 費	1,220,000	865,900	71.0	
幹 事 会 費	600,000	310,885	51.8	旅費、資料、会場
運 営 委 員 会 費	500,000	450,455	90.1	旅費、資料、会場
専 門 委 員 会 費	100,000	98,910	98.9	旅費、資料、会場
編 集 委 員 会 費	20,000	5,650	28.3	
負 担 金	3,153,000	2,876,900	91.2	
加 盟 分 担 金	393,000	374,000	95.2	難病連
全 国 会 負 担 金	2,760,000	2,502,900	90.7	全腎協
事 業 費	2,550,000	1,899,453	74.5	
総 会 費	500,000	341,696	68.3	
機 関 紙 費	1,500,000	1,207,445	80.5	どうじん4回
活 動 費	400,000	334,312	83.6	
広 報 員 活 動 費	150,000	16,000	10.7	
事 務 局 運 営 費	4,890,000	3,740,018	86.2	
通 信 費	250,000	155,305	62.1	切手、本発送
事 務 用 品 費	300,000	216,896	72.3	
新 聞 図 書 費	150,000	46,080	30.7	
交 通 費	100,000	72,000	72.0	
家 賃	840,000	831,000	98.9	
電 話 料	150,000	112,952	75.3	
雑 費	250,000	229,185	91.7	水道光熱費、振替料
備 品 費	400,000	397,760	99.4	
慶 弔 費	80,000	78,840	98.6	
事 務 局 手 当	2,200,000	1,600,000	72.7	
法 定 福 利 費	170,000	0	0	
予 備 費	82,738	0		
積 立 金		1,000,000		15周年記念事業積立、全国総会積立
次 期 繰 越		267,320		
合 計	11,895,738	10,649,591	89.5	

昭和63年度一般会計決算報告

(収入の部)

自 昭和63年4月1日
至 平成元年3月31日

科 目	予 算 額	決 算 額	%	備 考
会 費	8,280,000	7,508,700	90.7	会員数2,096名 道の助成金 雇用促進協会 物品、本の販売
配分交付金	973,000	934,000	96.0	
職場適用助成金	210,000	180,000	85.7	
国会請願募金	800,000	585,055	73.1	
寄 附 金	100,000	77,000	77.0	
物品販売益	200,000	166,734	83.4	
広 告 料	100,000	50,000	50.0	
雑 収 入	50,000	65,364	130.7	
小 計	10,813,000	9,566,853	88.5	
前 期 繰 越	1,082,738	1,082,738		
合 計	11,895,738	10,649,591	89.5	

昭和63年度特別会計決算報告

(収入の部)

自 昭和63年4月1日
至 平成元年3月31日

科 目	金 額	適 要
ブ ロ ッ ク 育 成 費	484,000	全腎協より
医療講演会助成費	0	
キャンペーン売上金	210,200	キャンペーン宣材
募 金 箱	92,075	62年度分
10周年記念寄附金	70,000	
雑 収 入	3,691	
前 期 繰 越 金	490,060	
合 計	1,350,026	

(支出の部)

科 目	金 額	適 要
用 品 購 入 代	181,380	キャンペーン宣材
ブ ロ ッ ク 会 議	307,262	
10周年記念講演会	100,000	
臓器移植基金	200,000	
10周年記念式典経費	202,722	
雑 費	3,000	
積 立 金	200,000	
繰 越 金	155,662	
合 計	1,350,026	

積 立 金

全 国 総 会 積 立 金	600,000
15周年記念事業積立金	600,000

会計監査報告

昭和63年度決算書に基づき、関係帳簿、領収書、預金通帳等を厳正に精査した結果、決算書の通り相違なく、いずれも正確、妥当である事を報告いたします。

平成元年 5 月 28 日

会計監査 村 本 徳 雄 ㊞

” 安 江 良 和 ㊞

.....
文書発言もできます
.....

道腎協規約第六条で、総会にたいして文書による発言も認められています。

なお、総会議案に対する意見のある方は、封書、はがき等別紙に書いて、五月二十五日（必着のこと）までに道腎協へお送り下さい。

へ送り先

〒001 札幌市北区北三十五条西五丁目

AMS南麻生三〇八

道腎協事務局 宛

平成元年度活動方針(案)

一、はじめに

医療と福祉の後退の流れは、依然として強化されています。最近の政府は、高齢化社会の到来による医療・福祉財源の不足など危険意識として叫び社会保障制度を維持していくことは困難として、国庫負担削減、受益者負担として民間活動導入を基本とした社会保障制度へ転換して行く方向を強く打ち出しています。

「適正化」と称し、各福祉制度の見直しなどを行い、一部透析患者に対し、児童扶養手当の支給停止、新規支給は行わないなどの問題が起きています。

こうした状況の中で、本道においても透析患者は、引き続き増大し、透析医療供給体制も長期透析患者の合併症、高齢化など様々な面で深刻な状況があり、医療費の増大も続いております。

また、腎移植の強い要望もありますが、死体腎提供者の不足により、一向に進まないのが現状です。このように、私達をとりまく状

況は本年度も極めて厳しく、苦しい活動が強いられることが予想されますが、道腎協では、腎臓病・腎不全患者の医療や生活を守るための切実な願いの実現をめざして、次のような運動を進めて行きます。

二、全腎協と連携しての活動

- ① 「腎移植月間」成功のために患者の立場から全力をあげて取り組み、腎提供登録拡大のため第九回街頭キャンペーンを行います。
- ② 腎疾患総合対策の早期確立をめざし、第十九回国会請願署名・募金活動に取り組みます。
- ③ 全腎協の役員として、二名を送り運営に協力します。
- ④ J R 運賃・航空運賃・有料道路料金の内部障害者割引を実現するため、引き続き関係方面へ働きかけを進めます。
- ⑤ 医療・福祉に関する全国的な問題に対しては全腎協と共に運動を進めます。

三、道内活動の取り組み

- ① 医療・福祉に関する要望事項の実現のため、道庁、道議会、その他関係機関に対し、陳情、要請活動を盛んにします。
- ② 道立江差・羽幌、市立室蘭の透析施設設置運動を更に展開します。
- ③ 道透析医会、透析機器メーカーなどとの連携や交流を深めます。
- ④ 「腎移植推進月間」成功のため、道・市町村行政と連携を強め、腎提供登録拡大の運動を進めます。
- ⑤ 道難病連との連携を更に強めます。

四、組織・財政・広報活動について

- ① 未組織病院患者会会の組織化支援・援助、未加入病院患者会会の加入促進に努めます。
- ② ブロック活動を強化するために組織内交流し、道腎協からの協力活動を進めます。
- ③ 道腎協の役員研修会を開催します。
- ④ 運営委員会・ブロック会議・専門委員会・編集委員会の定期開催に努めます。
- ⑤ 会員を二千三百人とすることを目標に組織率向上に努めます。
- ⑥ 健全財政確立のため、会費納入の充実、更に寄附金、販売活動を行います。
- ⑦ 募金箱運動を更に積極的に進めます。
- ⑧ 腎臓病に関する本の販売、普及を行います。
- ⑨ 機関紙「どうじん」の年五回の発行と「今月の情報」の随時発行に努めます。
- ⑩ 会員の親睦をはかり、見聞を広めるため、沖繩旅行を実施します。
- ⑪ 事務局体制の整備と強化をはかります。

(支出の部)

科 目	予 算 額	構 成 比	備 考
会 議 費	1,120,000	10.6	
幹 事 会 費	400,000	3.8	旅費、資料費、会場費
運 営 委 員 会 費	300,000	2.9	旅費、資料費、会場費
専 門 委 員 会 費	100,000	0.9	財政、広報、腎疾患
編 集 委 員 会 費	20,000	0.2	
全 腎 協 参 加 費	200,000	1.9	
難 病 連 参 加 費	100,000	0.9	
負 担 金	3,132,000	29.7	
加 盟 分 担 金	372,000	3.5	難病連
全 国 会 負 担 金	2,760,000	26.2	2,300名×1,200円
事 業 費	2,840,000	26.3	
総 会 費	700,000	6.6	議案書、会場費、旅費
機 関 紙 費	1,600,000	15.2	運送費込
活 動 費	500,000	4.7	
広 報 員 活 動 費	40,000	0.4	2,000円×20
事 務 局 運 営 費	3,350,000	31.7	
通 信 費	300,000	2.9	切手代、運送費
事 務 用 品 費	300,000	2.9	
新 聞 図 書 費	100,000	0.9	
交 通 費	100,000	0.9	
家 賃	600,000	5.7	50,000円×12
電 話 料	150,000	1.4	
雑 費	150,000	1.4	振替料他
水 道 光 熱 費	150,000	1.4	
備 品 費	200,000	1.9	コピーリース
慶 弔 費	100,000	0.9	
事 務 局 手 当	1,200,000	11.4	
予 備 費	113,320	1.1	
合 計	10,555,320	100	

平成元年度一般会計予算（案）

自 平成元年4月1日
至 平成2年3月31日

（収入の部）

科 目	予算額	構成比	備 考
会 費	8,280,000	80.5	2,300名×3,600円
配 分 交 付 金	958,000	9.3	道の助成金
国会請願募金	600,000	5.8	請願の道腎協分
寄 附 金	100,000	1.0	
物 品 販 売 益	200,000	1.9	
広 告 料	100,000	1.0	
雑 収 入	50,000	0.5	
小 計	10,288,000	100	
前 期 繰 越	267,320		
合 計	10,555,320		

平成元年度特別会計予算（案）

自 平成元年4月1日
至 平成2年3月31日

（収入の部）

科 目	金 額	適 要
ブ ロ ッ ク 育 成 費	484,000	全腎協より
キ ャ ン ペ ー ン 売 上 金	300,000	キ ャ ン ペ ー ン 宣 材
募 金 箱	100,000	
雑 収 入	10,000	
前 期 繰 越 金	155,662	
合 計	1,049,662	

（支出の部）

科 目	金 額	適 要
ブ ロ ッ ク 会 議	400,000	
用 品 購 入 代	400,000	キ ャ ン ペ ー ン 宣 材
臓 器 移 植 基 金	100,000	
予 備 費	149,662	
合 計	1,049,662	

積 立 金

全 国 総 会 積 立 金	600,000
15周年記念事業積立金	600,000

平成元年度役員候補者(案)

【運営委員会】

会長 岩崎 薫(札幌)
副会長 廣岡 達夫(苫小牧)
上田 弘(釧路)
鈴木 啓三(札幌)
津田 嘉郎(小樽)
中野 龍一(道南)
事務局長 堀井 和彦(札幌)
運営委員 宮本 好和(札幌)
川村 隆志(札幌)
棧 勇(札幌)
佐藤 利國(室蘭)
西木戸隆博(北見)
柳本 一(旭川)
木村 幸雄(十勝)
会計 芳賀 務(札幌)

【幹事会】

幹事 大西 政弘(札幌)
雨宮 英子(札幌) 会計監査
永田 和之(札幌)

齊藤 一子(小樽)
佐藤 昌夫(旭川)
乙竹 隆七(稚内)
池田 利男(留萌)
田中 政夫(道南)
伊藤 粹裕(苫小牧)
合田 晃(室蘭)
渡辺 節生(滝川)
藤田 一義(十勝)
忠村 敏(釧路)
東 一夫(北見)
原田 幸一(網走)
井上 茂(紋別)
須藤 亮(夕張)
山田 良明(岩見沢)
田中 稔(江別)
辻 伸夫(浦河)
岡田 昌治(根室)
村本 徳雄(札幌)
安江 良和(旭川)

【編集委員会】

委員長 堀井 和彦(札幌)
委員 鈴木 啓三(札幌)
宮本 好和(札幌)
芳賀 務(札幌)
永田 和之(札幌)
村本 徳雄(札幌)

全腎協派遣役員

ブロック代表

廣岡 達夫(苫小牧)
幹事 川村 隆志(札幌)

道難病連派遣役員

理事 堀井 和彦(札幌)
評議員 鈴木 啓三(札幌)
芳賀 務(札幌)
津田 嘉郎(小樽)
柳本 一(旭川)
事業資金委員
鈴木 啓三(札幌)

平成元年度スローガン

- 1、腎臓病の研究、予防、治療の腎総合対策の確立を！
- 2、本道に「腎疾患総合対策委員会」の確立を！
- 3、慢性腎炎患者の医療費公費負担を！
- 4、道立江差・羽幌、市立室蘭病院での透析施設設置を！
- 5、腎バンク登録の拡大を！
- 6、働ける腎臓病患者に社会復帰の道を！
- 7、内部障害者に、JR・航空運賃・有料道路の割引適用を！
- 8、強固な組織、2,300人の道腎協を！

総 会 宣 言

私達、道腎協は、昨年10月結成11年を迎えました。

この11年間、私達は幾多の困難を乗り越え、仲間と共に腎不全対策と福祉施策の前進をめざして、運動を進めてきました。

この結果、障害年金の支給、心身障害者医療費助成の実現や腎移植センター、腎バンクの設置など多くの腎不全対策や福祉対策を前進させ大きな成果を上げてきました。

しかし、こうした医学的、社会的対策の充実の一方で、新規導入患者は全国で1年間に14,000人ずつ増え続け、慢性透析患者はすでに8万人を越え、10万人に達するのも時間の問題です。道内でも3,500人に達するものと思われます。

この様に相変わらず増え続ける透析患者、その結果、医療費の増大や供給体制への不安、年々進む高齢化や重症化、そして、長期透析による合併症も深刻な問題となっています。

また、就学適応者の就職難は家庭生活を破壊します。

いま私達は医療の保障を一応勝ち得たものの、こうした面で厳しい状況に置かれています。

こうした状況を解決するために私達は訴えます。

腎臓病の研究、予防、治療から移植、社会復帰に至る「腎疾患総合対策」の確立を推進されることを強く願います。

私達は、このことが患者と道民のしあわせをつくり出すものであると確信して、このための運動を進めて行くことを宣言します。

平成元年 5月28日

北海道腎臓病患者連絡協議会第12回総会

道腎協加盟組織一覧表

会 名	〒	事 務 局 住 所	電 話
札幌腎臓病患者友の会	065	札幌市東区北18条東1丁目 喫茶クインテス内	011-741-4578
小樽後志地方腎友会	047	小樽市住吉町7番5号 うの外科クリニック内	0134-33-6586
旭川地方腎友会	070	旭川市1条11丁目腎友会ビル (株)健全舎内	0166-24-2936
稚内地方腎友会	097	稚内市中央4丁目11番6号 市立病院 透析室内	0162-23-2771
留萌地方水無人腎友会	077	留萌市寿町1丁目 市立総合病院 透析室内	01644-2-1500
道南腎臓病患者連絡協議会	041	函館市本通2-39-24 平田病院内	0138-55-5677
苫小牧つくし会		苫小牧市	
室蘭地方腎友会	050	室蘭市東町2-1-19室蘭市障害者福祉センター内	0143-45-6849
腎友会滝川クリニック透析者の会	073	滝川市有明町西2丁目4-45 腎友会滝川クリニック内	0125-24-2125
十勝地方腎友会		帯広市	
釧路地方腎友会	085	釧路市新富町1-7 林田クリニック内	0154-24-7174
北見地方腎友会	090	北見市5条西1丁目 北斗病院 透析室内	0157-24-9725
オホーツク腎友会	093	網走市新町1丁目1-17 石田医院内	0152-44-2261
紋別地方腎友会		紋別郡遠軽町	
夕張透析患者友の会	068-04	夕張市社光6番地 夕張市立病院 透析室内	01235-2-3020
岩見沢腎友会		岩見沢市	
江別腎臓病患者会		江別市	
浦河日赤腎友会		浦河郡浦河町	
根室地方腎友会		根室市	
北海道腎臓病患者連絡協議会	001	札幌市北区北35条西5丁目1番10号AMS南麻生308	011-747-0217
全国腎臓病患者連絡協議会	161	東京都新宿区下落合3-15-29 田沼ビル	03-952-5340

昭和四十八年一月十三日 第三種郵便物認可 H・S・K通巻一〇五号
平成元年五月十日発行(毎月十日発行)

発行所 北海道身体障害者団体定期刊
札幌市北区北十三条西一丁目
印刷所 北海道きんし印刷所
協会 神原義郎

頒価三百円